# 良子さんの
# ほっと一息ティータイム

## 楽しいおしゃべり

熊谷　良子　vol.24

４月に入学した１年生は、この頃ではランドセルも肩に馴染んできて、良く通る声で、
おしゃべりをしながら一団となって下校する姿が見られます。
絶え間ない話の区切りを見計らって、次の人が“待ってました”と言わんばかりにさっと話を始めます。
子どもたちは、自分の知っていることや経験したことを知ってほしい、
自分のもっている情報を共有したいという思いにあふれているので、聴く人よりも話す人になりたがります。
お互いに驚いたり、喜んだり、笑ったりし合うことを通して、「ともだち」になっていくスッテプを踏んでいるようです。
絶妙なタイミングを計るコミュケーション力は、なんとも清々しいものです。

ところが、しばらくすると、この賑やかな集団を見かけなくなります。
それぞれが、それぞれに、静かに帰っています。
それは、「いい子」は、はしゃがず、おしゃべりをせず、まっすぐ帰ることができるという社会的規範を守ろうとしているように見えます。
つまり、自立、自律であり、他者との関係や集団生活を良好に保つための責任感や協調性の芽生えです。
同時に、子ども時代がすぐに終わってしまうことを思い知らされる瞬間です。

私たちは日常生活の中でも様々な“いいね！”の評価に左右されることがあります。
私のことを知らない、見えない“誰か”の評価ですが、影響されると、自分を表現することを控えるだけでなく、
その人らしい自由な持ち味を発揮することもためらう面が生じてしまいます。
だからこそ、自分の心に正直に、自分を大事に生きている大人の存在は、
「人生の羅針盤」をつくる過程にある子どもには、かけがえのないものになるでしょう。
個人の独自性や多様性の尊重と重要さが、生活の中に自然と溶け込んでこそ、より気持ちよく、
豊かなおしゃべりが楽しめると思います。

2024.5.1